

北海道科学大学まちかどキャンパスinとかちプラザを開催！

12月17日(土)、18日(日)、帯広市のとかちプラザで北海道科学大学まちかどキャンパス「スポーツ・健康アトリウム」を開催しました。まちかどキャンパスは「大学の学びをまちかどで」をコンセプトに、道内各地で体験イベントや出前講義を行っているもので、道東での開催は今回が初となります。

今回のイベントは、夢プロジェクト「プロジェクトF」の中野岳琉さん(理学療法学科3年・帯広市出身)が中心となって企画し、プロジェクトFによるスポーツ体験ブースと、理学療法学科の井野拓実助教、阿部由依助教によるミニ講座を実施しました。

スポーツ体験ブースでは、「バランスチャレンジ」「スピードトレーニング」「AITトレーニング」「ストレッチング」「テーピング体験」の5つのブースを用意し、それぞれ参加者に体験していただきました。スピードトレーニングやAITトレーニングなど、ゲーム感覚で楽しく体験できるものもあり、小さなお子様から年配の方まで幅広い方々に参加いただきました。

井野助教によるミニ講義「スポーツ理学療法を体験してみよう」では、井野助教の専門であるスポーツ理学療法について、オリンピックスキーツームにスポーツトレーナーとして帯同した際の経験や、理学療法学科の学生の学内外での活動などを解説しました。

阿部助教によるミニ講座「骨盤底筋の使い方-尿漏れが止まる！ぽっこりお腹解消！-」では、男女における骨盤内臓器の違いや骨盤底筋の役割などについての説明があり、後半は実際に骨盤底筋トレーニング体験が行われました。

夢プロジェクト

ものづくりや健康増進、イベント開催やボランティアなど、学生の活動として社会から認められるものを、学生が自ら考え、自ら行う活動のことです。大学が学生の活動をサポートしています。

法人創立100周年記念事業寄付金ご協力のお願い

2024年に予定している法人創立100周年記念事業では、本法人が今後目指す「次の100年」を社会に発信するべく、多くの方の想いが反映されるよう諸事業の展開を計画しています。つきましては、諸事ご多端の折、誠に恐縮に存じますが、寄付の趣旨にご賛同していただき、卒業生、保護者、地域社会の皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募集期間	2021年6月1日～2025年3月31日	
募集の対象	個人の方 「一般有志・卒業生・保護者・教職員」	法人の方 「企業・団体」
	1口につき5千円	1口につき5万円

寄付の詳細につきましては、法人創立100周年記念事業寄付金サイトにてご確認ください。

法人創立100周年記念事業寄付金サイト▶ <https://ed.hus.ac.jp/100th/donation/>

こちらからも
ご確認
いただけます



※本誌作成にあたっては、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で取材・撮影を実施しております。

HUS NEWS LETTER

Hokkaido University of Science

北海道科学大学ニュースレター

Vol.40 / 2022 No.3 2023年2月16日(第217号)

Contents

- 01 特集1 高大一体教育、始まる
- 03 卒業生訪問
- 05 特集2 100周年記念会館竣工
- 06 特集3 HUSキャンパス・イルミネーション
- 07 研究室から
- 08 活躍する学生たち
- 09 学科だより

2023.4

高大一体教育、始まる

LINKS

高校

大学

4月から 前田に移転！



- 工学部
機械工学科 / 情報工学科 / 電気電子工学科
建築学科 / 都市環境学科
- 薬学部
薬学科
- 保健医療学部
看護学科 / 理学療法学科 / 義肢装具学科
臨床工学科 / 診療放射線学科
- 未来デザイン学部
メディアデザイン学科 / 人間社会学科

この春、 前田キャンパスが変わる！

大学と高校で新しい教育プログラムがスタート

1956年、豊平区中の島で開校した北海道科学大学高校は、
2023年4月、北海道科学大学がある手稲区前田キャンパスへ移転します。
新たに誕生するのは、生徒や学生、教職員など約6,000名が行き交う一大キャンパス。
キャンパス環境を整備し、新しい教育体制で迎える春。
北海道科学大学高校 山下卓教頭に「高大一体教育」について、
北海道科学大学 内田尚志教授に、2024年4月から始まる
北科大の新教育プログラム「HUSスタンダード」について伺いました。

同じキャンパスにある強み！

4月から、より身近になる北海道科学大学と共に、
高校生に少し先の未来を見ることができると期待
しています。大学の教育資源を活用しながら、大学の
学びや職業理解だけでなくとどまらない「HUS LINKS」
を広げていきます。早期に大学での学びを知ること
で開かれるさまざまな可能性。春からの新生活で、私
たち教育者が考える以上の高校生と大学生の“科”学
反応に期待しています。

大学生は、高校生のロールモデル。

高大が同じキャンパスにあることで、高校生は大学
生の学び方や過ごし方を身近に知ることができます。
高校の中で学びが完結していると、なかなか大
学入学後の姿が想像できませんが、高大一体教育で
は自分のロールモデルが見つかりやすいメリットがあり
ます。大学に入った後の目標点が見えることで、そこ
に向かって努力する動機づけになると考えます。

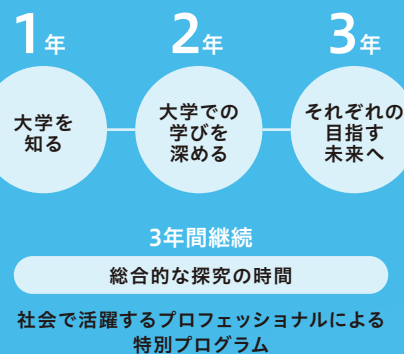
共用施設の100周年記念
会館(図書館)や専門書を
扱う書店も、大学生の生活
や学びを知るヒントに。

北海道科学大学高等学校

山下 卓 教頭

高校 HUS LINKS

HUSリンクス
大学の教育資源を活かし
生徒の多様性を育む



多様性を育む、四位一体の体制。

不確実なVUCAの時代、答えがひとつではないからこ
そ、私たちが大切にしているのが多様性です。前田キャン
パスに校舎を持つことで、高校生を取り巻く人々が、生
徒、高校教員、大学生、大学教員と“四位一体”になりま
す。また、本校では総合的な探究の時間を通して、社会
で活躍するプロフェッショナルとの接点を設けています。
多様な他者とつながることで、世界へ視野を広げます。



2024.4 START!

大学

HUSスタンダード

1・2年 全学部学科の学生が全員受講！

社会人として必要な
基盤能力を育成

5つの学びの特色

異分野間で協働する力を育む
複数学部・複数学科混成授業

Society5.0に対応した
数理・AI・データサイエンス教育

地域課題に主体的に関わる
課題発見解決型授業

専門外の最先端を学ぶ
「+Professionalセミナー」

SDGs(環境、自然、人権、平和、共生)を
多様な視点から学ぶ科目群

高大で単位を相互認定
コンカレントプログラム

大学1年後期に開講される
「HUSスタンダード」の科目や専
門科目の一部を、高校3年次後
期に履修することが可能。修得
した単位は、高大で相互認定。

↑
系列大
進学希望者

1年後期の
時間を有効活用

留学
インターンシップ
ボランティア
国家試験対策
など

HUSスタンダードとは？

本法人では「+Professional」をスローガンに掲げており、その根幹を成す
「基盤能力」を育成するための教育プログラムが「HUSスタンダード」です。基
盤能力は生涯にわたって身につけていくものですが、大学教育ではディプロマ・
ポリシーとしてコミュニケーション力、課題発見解決力、自己管理力・自己向上
力、多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力を育成することとし
ています。HUSスタンダードは、5つの学びの特色を持つプログラムで、これら
の力をすべての学生に身につけてもらうために開発しました。

時代の要請に応える、HUSスタンダード。

現代の社会は変化のスピードがとても速く、大学で専門分野を学んでも、次
から次へと新しい知識や技術が生まれてきます。だからこそ、常に新しいものを取り
入れ、新しいことに挑戦する姿勢が大切です。時代の先端を切り拓く気概を持
ち、挑戦する力をまずは身につけてほしい。また多様性の時代と言われる今、自分
と異なる専門分野や背景を持つ人と協働するためには柔軟さも不可欠です。HUS
スタンダードの開発にあたっては道内企業の声を収集し、時代が求めるニーズも
反映しました。これまで以上に社会に貢献できる人材の輩出を目指していきます。

すべての学生が共に学ぶ、 新・教育プログラム。

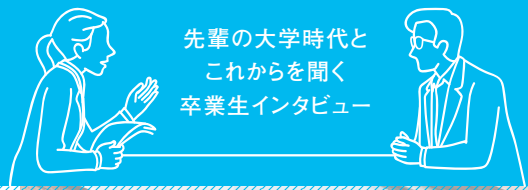
基盤能力を育成するHUSスタンダードでは、
複数学部・複数学科の混成クラスで実施する
課題発見解決型授業やSDGsを学ぶ科目群の
ほか、現在導入している「数理・AI・データサイ
エンス教育プログラム」を、希望者は学部を問
わず応用基礎レベルまで修得することが可能
になる予定です。さらに、本学のさまざまな分野
の教員によるオンデマンド講演とオンラインで
の意見交換を活用することにより、学生が専門
分野外の最先端を学べる科目を開講します。
学生それぞれが自らの専門分野を学びなが
ら、学生生活の中で生まれた興味・関心を広げ
られる環境を整えることで、低学年のうちから
豊かなコミュニケーション力や自己実現力を育
成することを推進していきます。



北海道科学大学

全学共通教育部
HUSスタンダード開発ワーキング・グループ長

内田 尚志 教授



先輩の大学時代と
これから聞く
卒業生インタビュー

File.11

大成建設株式会社 札幌支店
作業所長

なかにし まさひろ
中西 雅裕 さん

PROFILE

札幌市出身。札幌啓成高校卒業。北科大の前身となる、北海道工業大学工学部 建築工学科を1993年3月に卒業。7年前から前田キャンパスの再整備に携わり、D棟、F棟、実験棟、高校新校舎の現場で作業所長として建物全体の責任を担う。現在、業務と並行して北科大で週に1度授業を担当し、建築学科の後輩たちを直接指導する。

新校舎が完成した現在の心境。

高校の新校舎が無事に完成し、正直ほっとしたというのが今の気持ちです。高校の新校舎は、2012年から続く前田キャンパス再整備事業の集大成となる建物で、その重圧やプレッシャーはとても大きなものでした。再整備計画の中でも、高校新校舎は最も難易度の高い設計でしたし、「いいものを作らなければならない」という使命感や、自分が学んだ恩師がいる環境での施工には緊張感がありました。その中で、大成建設と専門工事会社で活躍する、たくさんの卒業生がこの工事に携わり「チーム北科大」で有終の美を飾れたことを嬉しく思います。

外装、内装、各所に込められた建物へのこだわり。

新校舎の外観は大学既存校舎へのリスペクトを込めて、図書館のレンガタイルや大学の外壁に用いられている柱のデザインを継承しています。インテリアの特長は、校舎全体を巨大な三角形とすることで館内にさまざまな空間を設けたこと。館内の特徴的な吹き抜けも垂直に配置するのではなく、ランダムに重ねることで声が届きやすく、建物そのものがコミュニケーションしやすい環境になっています。大きなガラス面からは大学生の日常を垣間見ることができ、大学の自由な雰囲気を体感することで、北科大への興味・関心につながっていくのではと考えました。北海道という地域柄、意識したのが雪に対するシミュレーション。事前に風が吹き込む方向や立地条件によって、どのように雪が積もるのか、吹き溜まりがしやすい箇所はどこかなどについて検証を重ねました。北科大には苦米地司理事長や千葉隆弘教授など雪氷工学のプロフェッショナルがいっぱいいますから、アドバイスをいただきながら実際の設計・施工を進めていきました。

先輩から自分たち、さらに後輩たちへ。 社会の第一線で活躍する北科大ネットワーク。

大成建設の札幌支店には、私と同じ作業所長の肩書を持つ役職者が11名おり、そのうち6名が北科大の卒業生です。札幌支店全体では30名ほどの卒業生が所属していて皆が第一線で活躍しています。札幌支店では、どのプロジェクトにも必ず北科大卒業生の名前があり、これだけOBOGが集まって工事を行っている企業もそうありません。先輩から、我々、そして後輩へと輪が広がっているのは、北科大が評価されている証でもあるのかと感じます。今後も現役の学生、さらに若い人にとっても、いい大学であり企業であり続けたいと思っています。



専門工事会社

旭イノベックス株式会社
担当 鉄骨の骨組み、体育館屋根のトラスなど
大谷 浩平さん
機械システム工学科/2014年卒業
帯広工業高校出身

躯体や骨組みは普通は見えない部分ですが、今回は体育館屋根の構造骨組みが見えている仕様。設計図をもとに自分が書いた図面が実際に形になり、大きなやりがいを感じました。

建設会社

大成建設札幌支店
担当 工事課長代理、工事・施工担当
藤谷 洋樹さん
建築学科/2011年卒業
北海道尚志学園高校出身
(現 北海道科学大学高校)

高校、大学ともに系列校の出身です。建設業は忙しいことも多いですが目に見えて形になるやりがいが多い仕事。施工管理を目指すなら大成建設へ！

専門工事会社

丸喜運輸株式会社
担当 地鎮祭の実施など
川村 佳裕さん
電気デジタルシステム工学科/2013年卒業
琴似工業高校出身

学生時代は大学祭の実行委員で、その経験から現在の会社のイベント事業部に所属。地鎮祭などの神事や式典を担当しています。高大合同の大学祭などが実施できたら盛り上がるのでは！

高校新校舎の 建設に携わった 卒業生の皆さん

専門工事会社

旭日電気工業株式会社
担当 体育館棟の電気設備など
鈴木 昭太郎さん
電気電子工学科/2019年卒業
北海道尚志学園高校出身
(現 北海道科学大学高校)

卒業生が多く仕事のしやすい現場でした。北科大高の出身でもあるので、気合を入れて施工しました。新校舎は学校らしくなくカッコいい建物。新しい体育館で部活に励んでもらい全国大会を目指してください！

建設会社

大成建設本社設計本部
担当 建築設計、設計担当
民野 志織さん
建築学科/2019年卒業
札幌手稲高校出身

設計・デザインを担当しました。フロアごとに形が違ふ吹き抜けの複雑さが特長です。個人的には最高の出来。後輩にも建物に形になる感動を是非、経験してほしいです。

建設会社

大成建設札幌支店
担当 工事・施工担当
植木 亮輔さん
建築学科/2018年卒業
札幌工業高校出身

ひとつの建物を何年かけて、何百、何千人で作上げる素晴らしい。新校舎は、卒業生が結集してこれだけの仕事ができるという良いアピールになると思います。

専門工事会社

株式会社きんでん
担当 校舎・外構まわりの電気設備全般
三浦 巴哉さん
電気電子工学科/2019年卒業
旭川東栄高校出身
(現 旭川永嶺高校)

専門工事会社の担当者も卒業生が多く、建物を作っている時から一体感がありました。新校舎は友達、家族はもちろん、将来自分の子どもにも施工したことを伝えられる誇りになる建物です。

建設会社

大成建設札幌支店
担当 工事・施工担当
井上 昂大さん
建築学科/2019年卒業
帯広三条高校出身

内装の見どころは吹き抜けです。仕上がりの良さを意識しながら施工しました。高校の新校舎は前田キャンパスの集大成。最高傑作ができました！

学生・生徒や教職員、地域の方々をつなぐ場へ

100周年記念会館 HUS+H(ハッシュ)竣工

学校法人北海道科学大学は、2024年8月10日に創立100周年を迎えます。

その記念事業の一環として、図書館を「100周年記念会館」として全面リニューアルを行い、2023年4月8日(土)からいよいよ「100周年記念会館 HUS+H(ハッシュ)」の利用が始まります。

新たに誕生する100周年記念会館は、本学学生はもとより、北海道科学大学高校の生徒、地域の方々にもこれまで以上に開かれた空間となります。地域の方々との交流の場や能動的な学習の推進に活用していきます。

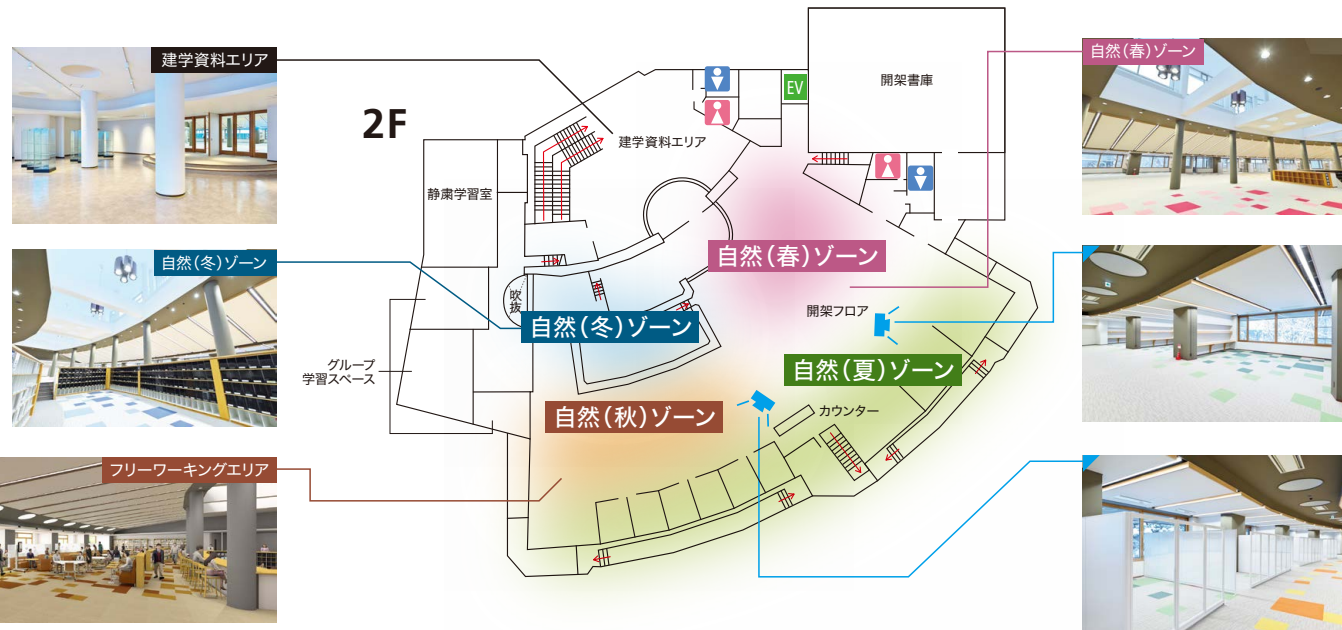


在学生から募集し決定!

愛称「HUS+H(ハッシュ)」

北海道科学大学を表すHUSにHをプラスした「HUS+H」。これには2つの意味が込められており、ひとつはHUSに、HOPE(希望)やHUMANITY(人間性)、HUNDRED(100)の頭文字Hをプラスしたこと。また、法人共通のシンボルマーク「Progress「H」」の意味も含まれています。もうひとつは、インターネット上で関連を示す際に用いる「ハッシュタグ(#)」をモチーフにしています。共通の趣味や関心を持つ人々を「つなぐ場」になってほしいという願いが込められています。 ※ #の正しいスペルは「HASH」です。

CONCEPT



■カラフルゾーン(1階)

1階のエントランスから館内に入ると、モノトーン天井と色彩豊かな家具のコントラストが空間に広がるカラフルゾーン。オープンスペースとして自由に空間を利用できます。個人やグループで、思い思いの時間を過ごすことができます。

■自然(春夏秋冬)ゾーン(1・2階)

バルコニーの緑と調和するよう、木調の机や家具などをレイアウトした自然ゾーン。春=赤、夏=緑、秋=橙、冬=青の配色を用いながら、壁や間仕切りのない緩やかなゾーニングとし、自由に活用できるエリアを配置しました。



北海道科学大学高校新校舎
100周年記念会館

4/8
(土)

お披露目式を開催
特別ゲストが登場予定!

詳細は本学ホームページにて随時公開。
是非お越しください。

※フロア図、画像、名称等は変更となる場合があります。

HUSキャンパス・イルミネーション 2022

開催報告

12月2日(金)~25日(日)の期間、今年で6年目となる
HUSキャンパス・イルミネーションを開催しました。

HUSキャンパス・イルミネーションは、本学の開学50周年を期に
同窓生の皆様からいただいた寄付を元に制作したことに始まり、
今年は3年ぶりに多数の参加型イベントを開催しました。

キャンパスを彩る スタンドグラスアート

スタンドグラスアーティストで本学客員教授を務めるMie氏がプロデュースするスタンドグラスをあしらった14本の光のオブジェと光のアートがメインプロムナードやバス停などキャンパスを彩りました。また、日本を代表する万華鏡作家、依田満・百合子夫妻が手掛ける投影型万華鏡が校舎壁面に投影され、幻想的な雰囲気演出されました。

屋内ではHUSクラブミュージアムと題し、文化系クラブを中心とした学生の作品が学内各所に展示され、来場者の目を楽しませました。

日本を代表する
万華鏡作家
依田夫妻による

投影型万華鏡

HUSクラブミュージアム

期間中、さまざまなイベントを開催しました

キャンドルホルダーワークショップや、HUSウィンターワークショップDAYは、どちらもすぐに定員に達する盛況ぶりです。多くの方に参加していただきました。参加者が作成したキャンドルホルダーは、イルミネーション開催期間中、E棟ホールで展示されました。

またWinter Night Loungeと題して、平日の午後5時からショートフィルム上映会、学生によるHUSクラブパフォーマンス、芸森スタジオからアーティストを招きHUSクリスマスコンサートを開催しました。

キャンドルホルダーワークショップ



Human BeatBox
同好会



HUSクラブパフォーマンス

HUSクリスマスコンサート



SUNNY FIELDS
JASS ORCHESTRA



ショートフィルム上映会



HUSウィンターワークショップDAY



研究室から

先生の研究を
のぞいてみよう！



地域住民一人ひとりの声が、
愛着のあるまちを作る。

工学部 建築学科
たにくち なおひろ
谷口 尚弘 教授

- 炭鉱地域の歴史から
- 見えてくる、日本の未来。
- まちづくりに必要なものとは何か？
- その深部にチームで迫る、
- 谷口先生の研究室に伺いました。

人口減少が進む社会の中で、地域の住宅街をどうマネジメントしていくかという研究に取り組んでいます。研究対象として炭鉱地域を縮退先進地域として取り上げています。昭和30年以降、炭鉱地域では人口減少や高齢化が進み、この状況は日本がこれから進む未来の姿と言えます。その歴史や過程を見極め、これからの地域政策に活かしていくことが目的です。

この調査研究では、建築分野にとどまらず、さまざまなことに触れ、理解しなければなりません。炭鉱産業の成り立ち、炭鉱を経営していた当時の旧財閥のこと、国の政策や地域への投資、地域の地質・地形など学ぶ範囲は多岐にわたります。調査では空知、羽幌、釧路など道内の炭鉱地域や九州、海外とさまざまな場所を訪問しました。現地で得た経験は授業などで学生たちにも還元しています。日本で何が起きてきたのか、社会がどう動いているのかを学生たちにも共有し、専門外のことも身につけて成長してほしいと思います。

この研究の調査は、東京大学や長崎大学、東京理科大学、福岡大学の先生方とチームを組んで進めています。昨年、地方都市の縮退に

対する国の政策としてコンパクトシティが推進されていますが、その一連の政策に対してチームで疑問を感じていました。まちにはそこに住む人々の気持ちや想いがあり、それぞれの形があります。まちが縮退する時、急速に人口減少が進むこともあるし、ゆっくりと減っていくこともある。逆に、活気を取り戻す場合もある。一律にコンパクト化するのではなく、そのまちがどういう未来を選択するのかは、そこに住む人たちが考えながら折り合いをつけていくものではないでしょうか。視察を重ねながら、どのような方策があるのかまとめ、それぞれのまちに還元していきたいと考えています。

炭鉱縮退地域の研究を進めて10年ほどになり、現在その成果を多くの人に興味を持ってもらえるような書籍にまとめる準備を進めています。自分たちの地域が今、どのような状況にあるのか、今後どのような将来像が考えられるのか、未来のまちづくりの指針に役立つものになればと思います。

大学のキャンパスがある札幌市手稲区では地域活性や子どもたちのまちへの愛着を育むことを目的に、毎年「ていね夏あかり」が開催さ

れています。恩師でもある本学の大垣直明先生が立ち上げ、私も初めて協力してから30年が経過しました。現在は学校法人北海道科学大学創立100周年記念事業の四季のイベントとして大学のサポートも大きいです。ゆくゆくはていね夏あかりの日にはちょうちんを手に区民が自然と集まり、交流が生まれるようになれば、まちのイベントとして揺るぎないものに成長していくのではと感じます。

まちづくりで大切なことは、地域の人が想いを持って、その地域で生きていくための方策をどう考えるのか。言葉に出せないけれど、想いを持っている人はたくさんいます。一人ひとりの想いに耳を傾けながら、日本のまちづくりを考える研究を続けていきたいと思っています。



▲2022年9月に日本建築学会大会が本学で開催され、谷口先生が実行委員長を務めました。コロナ禍の中、来場型とオンラインの2体制で実施。「学内に遠隔システムが構築されていた本学だからこそ実現したハイブリット開催」と振り返る谷口先生。充実した環境は学会関係者にも大変好評で、広く全国に北科大の名を発信することができました。



◀2022年は、北科大の建築学科が誕生して50周年。それを記念して学内外でさまざまなイベントが催されました。6,000人の卒業生を輩出した建築学科で、ご自身も本学の学部、大学院をご卒業されている谷口先生。伝統ある建築学科の一層の発展を目指します。



活躍する学生たち

産学連携企画 「リポキャン！」で 本学学生チームが 大健闘！

ファイト
イッパーツ！



「リポキャン！」とは、『高校生が“○○”といたらリポDだよね』という文化・シーンを創造せよ！』をテーマに、リポビタンDと高校生の未来を切り拓く企画や施策を、大学生が考案するものです。

このチャレンジには、北海道科学大学、城西大学、明星大学、和洋女子大学の4大学12チームが進出しました。本学から〈アスン〉〈ブレンド〉〈HUSのマークの薬学生〉の3チームが出場し、8月に東京で決勝大会が行われ、〈アスン〉が2位に輝きました。1位のチームとは僅差で惜しくも優勝を逃しましたが、審査員から高評価を得られました。〈ブレンド〉〈HUSのマークの薬学生〉も、素晴らしい提案を行い、出場した各チームの企画には、学生ならではの視点と、薬学科、メディアデザイン学科それぞれ授業で培った知識とアイデアが盛り込まれていました。

在学中に身につけたスキルや得意分野を活かして、企画を考えた学生たち。各チームの企画内容をご紹介します！



大正製薬株式会社と株式会社マイナビによる、産学連携企画「リポキャン！」

詳しくはコチラ



デザイン×薬学の 異色コラボ！

アスン



学科混合チーム

- 薬学科4年 乙部 久稀さん 外川 朋弥さん 伊藤 優那さん 福嶋 紗音さん
- メディアデザイン学科3年 柳澤 佳乃さん 武田 麻衣さん

リポDに含まれる7つの成分をゆるキャラ化。高校生に愛される「推し」を創り出し、15秒のアニメーションを制作。薬学科の科学的根拠とメディアデザイン学科の物語的で視覚的な表現がユニークに融合。短い映像の繰返しで高校生に印象づける提案です。



センスと 想像力で勝負！

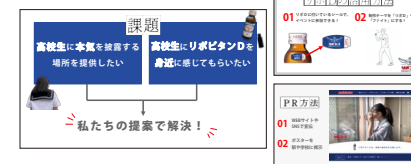
ブレンド



メディアデザイン学科チーム

- メディアデザイン学科3年 加藤 顕花さん 阿部 結さん 松本 紀菜さん

目指したのは「高校生が本気を出す場所を提供すること」と「高校生にリポDを身近に感じてもらふこと」の融合。自分探しの年代にある高校生の気持ちに寄り添ったイベント企画と動画制作によるアプローチを考案。高校生の秘められた本気を後押しするアイデアです。



専門的な知識で アプローチ！

HUSのマークの薬学生



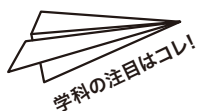
薬学科チーム

- 薬学科4年 乙部 久稀さん 伊藤 優那さん 外川 朋弥さん 福嶋 紗音さん

薬学科で学ぶ「イメージ訂正反応」をテーマに、リポビタンDに含まれている成分を学び、リポビタンDのイメージを変えることをコンセプトにした企画。高校生が難しいと考えがちな「実験」について、リポDという触媒を通じて、より身近に感じてもらふ試みです。



学科だより



北海道科学大学の13学科から、今回は下記の5学科にスポットを当てて、学科の最新ニュースをお届けします。

今回は、**機械工学科** **都市環境学科** **看護学科** **義肢装具学科** **人間社会学科** の5学科を紹介！

北海道科学大学の歴史を継承していきます。

工学部 機械工学科

学校法人北海道科学大学は1924年に伏木田隆作が創設した「自動車運転技能教授所」から始まります。本学で所有する1926年製のT型フォードは、当時実際に自動車運転技能教授所の教習車として使用されていた車両で、北海道自動車短期大学に引き継がれ、実習車として整備士の育成のために使われてきました。その後、動態保存・静態保存を繰り返しながら、手稲前田キャンパスに静態保存の状態で引き継がれました。

このT型フォードを再生させるべく2018年に「T型フォード再生プロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトリーダーは本学機械工学科卒業生で事務職員の藤田直也さんです。ここに機械工学科准教授の北川浩史先生が加わり、機械工学科の大学院生や学部生など多くの学生や教職員が再生プロジェクトに参加してきました。T型フォードの再生は無事に終了し、小樽クラシックカー博覧会や高校での出前授業、子どもたちとのイベントなどに出勤しています。

このT型フォードは96年前の車両ですが、自動車の原型といえます。エンジンはもとよりトランスミッションやサスペンション、デフアレナシャルギアなど現在も使われている機構で多くのことを学ぶことができる生きた教材です。もちろんこれらの機構は自動車以外の機械にも広く使われています。機械工学科では授業や実習だけではなくこのような生きた教材も学びに取り入れています。



T型フォード特設サイト

<https://sites.google.com/hus.ac.jp/t-ford/>



大学祭で「都市環境展」を開催しました。

工学部 都市環境学科

9月24日(土)・25(日)の2日間、3年ぶりに大学祭が対面開催されました。新型コロナウイルスの流行により中止やオンライン形式での実施となっていたが、今年は事前予約制と感染対策などを行い対面で開催することができました。

都市環境学科では2008年以来継続している学科展示「都市環境展」を行いました。これまでは、屋外に大型テントを設置して行っていたが、今年は新しく完成した工学部西棟(D棟)のD101演習室・D120実験室へと場所を屋内に移動。積み木(カブラ)を使った作品展示やショベルカー(通称:ユンボ)を使ったゲームコーナー、また体験学習コーナーでは、地盤液化現象を繰り返し実験・観察することができるボトル(通称:エキジョッカー)づくりなどのイベントを行いました。

都市環境展への2日間の来場者数は、「ユンボであめ玉ゲットだせ」140人、「ユンボでスーパーボールゲットだせ」261人、「エキジョッカーを作ろう」限定70組と、たくさんの方々に参加していただきました。また、「カブラで遊ぼう!」の全4回のイベントには、約3,000枚の積み木を使い2時間かけて制作した巨大な作品がたった1分でパラパラと崩れていく様子を来場者の皆さんに見ていただきました。このイベントは大学公式インスタグラムでLIVE配信され、途中、上手く崩れずに学生スタッフが仕方なく手で壊した瞬間に、たくさんの「いいね!」をもらえたようです。

今回、運営に参加した学科スタッフのほとんどが初めての大学祭でしたが、「来年度もまた参加したい!」と言ってもらえて、教員一同ホッとしています。この記事を読んでも読んでいただいた皆さん、ぜひ来年は大学までお越しください。大学祭会場でお待ちしています!



▲D101演習室のゲームコーナー・体験学習コーナー。



▲イベント「カブラで遊ぼう」の準備。

努力したぶん、大きな成長に。 卒業研究発表会を実施しました。

保健医療学部 看護学科

看護学科では例年11月中旬に卒業研究発表会がありますが、今年は3年ぶりに対面での実施になりました。発表会そのものも大切ですが、そこに至るゼミや研究活動は、試行錯誤を繰り返しながら将来看護師としての探究心を高め、理論的な思考を育むための有意義な体験にもなっています。ある学生は「いろいろな論文を読んだり分析していくことが大変でしたが、調べていくうちに興味が湧き、ゼミメンバーと協力しながら卒業研究を完成できたことが嬉しかったです」、また他の学生は「ゼミでたくさん頭を使った後に、みんなでご飯に行ったり、学祭に参加したりして、大変なことを頑張ったぶん、楽しい思い出もたくさんできました!」と感想を寄せてくれました。初めて取り組むゼミ活動や研究に難しさがありますが、いろいろな人からアドバイスを受けたり、学生同士で思い悩みながら、互いに協力しあうことで、達成感ややりがいを感じることができることも卒業研究の醍醐味です。

11月の発表会が終わった後は、休む間もなく看護師になるための国家試験に向けてラストスパートになります。新型コロナという局面を乗り越えた学生たちは、国家試験の合格、そして看護師としてさまざまな場面で活躍していくでしょう。



義肢装具学科の学生が学会発表を行いました。

保健医療学部 義肢装具学科

義肢装具学科の昆恵介教授のゼミに所属する4年生の山下和真さんと、齊藤主樹さんの2名が、10月8日(土)・9日(日)に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催された第38回日本義肢装具学会学術大会に発表者として参加しました。義肢装具学会学術大会は、義肢装具領域では国内最大級の学会であり、二人が発表した第38回大会には、およそ900名の来場がありました。

研究タイトルは「脱着可能な外付けあぶみを用いた両側支柱付き短下肢装具の評価」です。短下肢装具(膝下から足先までを支える機具)を使う方々の、靴の選択肢が非常に限定的になっている現状を改善することを目的に開発された「プロップヒール」を、有効に活用するために必要な靴の構成要素を明らかにする研究内容でした。

就職活動や国家試験に向けた学習と並行しながらの発表準備となりましたが、学科の学生を代表して堂々とした発表をしてくれました。

山下さんは関西地方、齊藤さんは関東地方の会社へ就職が内定しており、春から義肢装具士として活躍する予定です。臨床家となった後も、勉強を続けて、ユーザ様により良い義肢装具を届けながら、ぜひ研究活動も頑張ってください。



学科科目「フィールドワーク」で、 木古内町を訪問しました。

未来デザイン学部 人間社会学科

フィールドワークとは大学を離れ、フィールド(調査対象の現地)を訪れ、直接観察・関係者への聞き取り・資料の収集など、書籍や講義だけでは得られない情報から課題を明らかにし、解決策を探るための調査手法です。

今回は3年生が道南の木古内町が課題としている「移住促進策」「道南いさりび鉄道への乗客数増加策」への現状分析のため、新幹線開通から道の駅の運営、佐女川神社寒中みそぎ祭りこと始めについて、町・観光協会関係者への聞き取り・現地観察・資料収集を2泊3日で行いました。今後、解決案を作成し木古内町へのプレゼンテーションを行います。

3年生科目として「フィールドワーク」を開講しています。皆さんも地域の課題解決のためフィールドに出てみましょう!



▲観光協会職員への聞き取り調査。



▲佐女川神社「寒中みそぎ祭りこと始め」みそぎ浜の現地調査。



▲宿泊した移住促進住宅での町職員への聞き取り調査。



▲神秘的佐女沼への現地調査。



▲道の駅「みそぎの郷きこない」の前にて。